

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農業使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第1号 畑作物

発行日 平成24年 3月22日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ（電話 0197-68-4436）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 小麦 融雪促進、ほ場の点検・補修（排水対策の見直し）を行いましょう。
麦踏み、融雪期追肥は茎立ち前までに実施しまょう。

小麦

1 融雪促進

例年よりも雪解けが遅れているところでは融雪剤（もみがらくん炭、黒土、熔成リン肥、てんろ石灰等）を散布し、融雪促進を図りまょう。融雪剤の散布により、雪解けが概ね5～10日早まることが期待されます。

2 排水対策

排水溝が崩れたり、途中にゴミが詰まっていないか点検し、確実に排水できるよう補修しまょう。例年、隣接する水田からの流入水等の影響で生育の悪いほ場が散見されます。畦畔を整備するとともに、茎立ち前に、ほ場内排水溝を設置しておきまょう。

3 麦踏み

越冬前の生育が旺盛な場合、生育を均一にし、耐倒伏性を高める効果もあるので、鎮圧ローラーやタイヤなどを用いて麦踏みを行いまょう。消雪後の茎立ち前、圃場が乾いているときに行いまょう。ただし、排水不良の圃場や土壌水分が極端に高い場合は、土壌が固結し根の発育障害がみられるなど、かえって圃場を荒らすこともあるので無理な実施は避けまょう。

4 融雪期追肥

融雪期追肥は下記の表を参考に生育量を確認して行いまょう。縞萎縮病や白鳥による食害を受けた場合にも、融雪期追肥が有効です。

表1 生育量に基づく融雪期窒素追肥の目安

品種名	診断内容	融雪期窒素追肥の対応
ナンブコムギ	越冬後株数 75～120株/㎡ (茎数 400～1000本/㎡程度)	2kg/10a追肥
	越冬後株数 120株/㎡以上 (茎数 約1000本/㎡以上)	追肥しない
ゆきちから	越冬後茎数 1400本/㎡未満	4kg/10a追肥
	越冬後茎数 1400～1900本/㎡	2kg/10a追肥
	越冬後茎数 1900本/㎡以上	追肥しない

5 除草

圃場をよく観察し、雑草が生えそろうたらすぐに茎葉処理剤を散布しまょう。ラベルをよく読んで使用しまょう。

6 ムギ類萎縮病、コムギ縞萎縮病について

どちらの病気も土壌伝染性のウイルスが原因です。名前のおり株が萎縮し、黄緑色のかすり状の斑点・モザイク症状を示します。特にナンブコムギでは多発圃場が年々増加しており、今年も被害が大きくなることが予想されます。萎縮病の症状が見られた場合は、追肥で被害を軽減しまょう。

次号は4月26日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。